

## 販売額2年連続1億円超え

～令和3年産桃精算報告会～

12月15日、本店で令和3年産桃精算報告会を開きました。生産者やJA役員約40人が出席。同年産桃の生育や販売経過、販売額が2年連続で1億円を超えたことなどを報告しました。

令和3年産の販売額は1億2231万円（前年対比80.4%）となり、入庫数量は3万2082箱（前年対比91.1%）。あかつきの生育が良好で、上実入庫数量が過去最高の4876箱（前年対比122.6%）となったことや、平川市のふるさと納税返礼品にもなっている川中島白桃の知名度が高まっていることが安定した販売に繋がりました。

りんご野菜課の販売担当者は「今後も市場の評価を上げ、産地力・ブランド力の向上を図るためにも、品質向上と出荷体制の強化に努めたい」と話しました。



販売額などを確認する生産者

## 薬剤散布の注意点などを説明

～令和4年用りんご病害虫防除暦の説明会～

みなみ地区りんご共同防除連絡協議会（山内誠会長）は12月17日、本店で令和4年用りんご病害虫防除暦の説明会を開きました。同協議会の会員約100人が出席し、令和4年産の薬剤散布などを確認しました。

平賀基幹グリーンセンターの平田敏幸営農指導係長が、令和3年の気象状況や病害虫の発生、令和4年病害虫防除暦の記載内容を説明。「令和4年用防除暦は、ハダニ類と黒星病の防除を重視した内容となっている。変更点や注意事項を確認し、適切な薬剤防除を行ってほしい」と呼び掛けました。



指導員の説明を聞く会員

## 栽培の要点をしっかりと確認

～尾上地区青天の霹靂の講習会～

尾上基幹グリーンセンターは12月16日、尾上基幹支店で県のブランド米青天の霹靂の講習会を開きました。生産者約20人が出席し、同品種の栽培管理などを確認しました。

同グリーンセンターの山口博之営農指導係長が講師を務め、令和3年産米の生育や栽培管理記録簿の解析結果などを説明。来年産に向けた安定生産のポイントについても説明し、「生産目標を達成するために、条件の良いほ場選びは重要。ブランド米生産支援システム『青天ナビ』を活用して選んでほしい」と話しました。



栽培管理を確認する生産者